

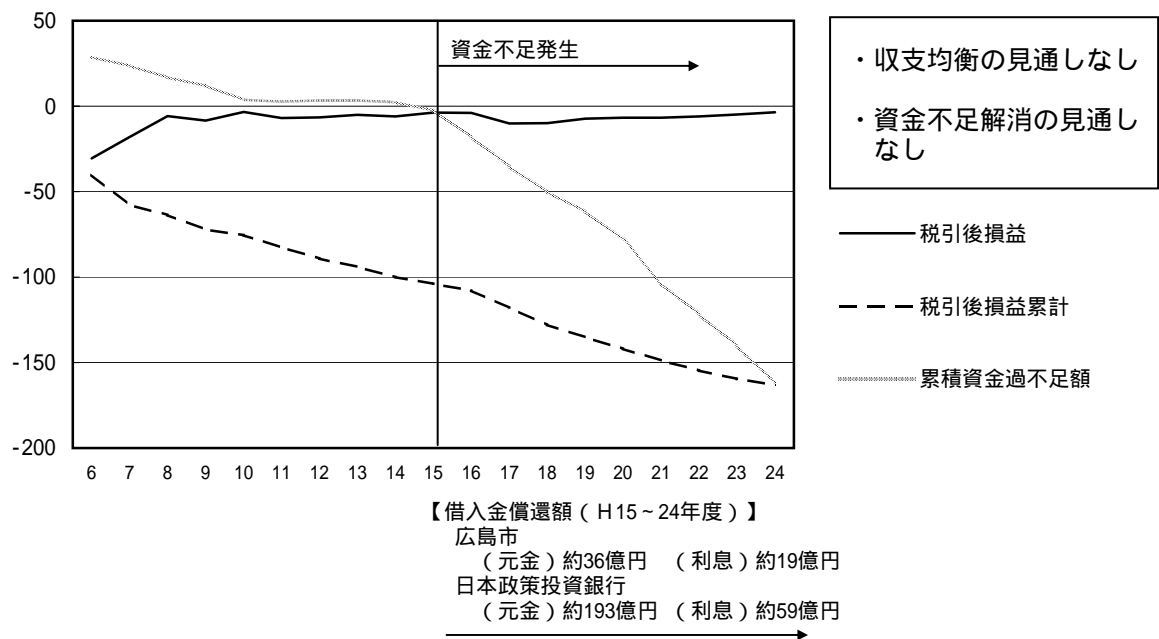
(2) 極限までの自助努力を反映した経営収支試算結果

【試算結果】

(単位：百万円)

項目	平成14年度見込	平成24年度予測
営業収入	4,532	4,525
営業費用	4,636	4,024
営業損益	104	501
営業外収入	462	76
営業外費用	2,123	923
営業外損益	1,661	847
経常損益	1,765	346
特別損益	1,170	0
当期損益	600	351
累積損益	10,008	16,307
資金過不足額	120	2,184
累積資金過不足額	220	16,200

【損益及び累積資金過不足額推移】



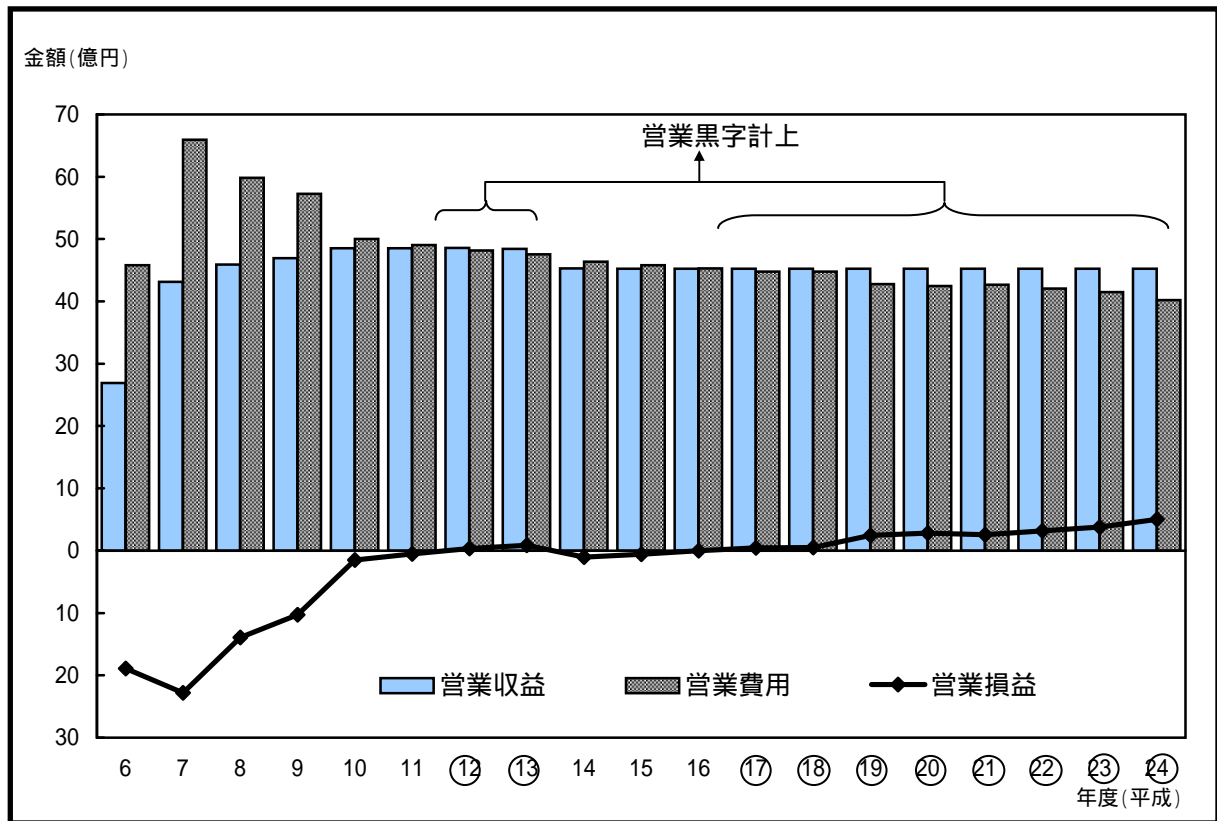
〔損益収支〕

- ・ 単年度損益は平成24年度（開業後19年目）までに黒字転換しない
- ・ 累積損益は平成14年度（開業後9年目）に約100.1億円の欠損となり債務超過が発生
- ・ 最大累積欠損は平成24年度（開業後19年目）で約163億円

〔資金収支〕

- ・ 平成15年度（開業後10年目）に資金不足が発生
- ・ 地下鉄補助金の分割交付が終了する平成17年度以降、資金不足額が急速に拡大

【極限までの自助努力を実施した場合の営業損益推移】



当社の極限までの自助努力を講じた場合の経営収支試算結果からは、可能な限りの経費削減策を実施することにより、営業損益面では、今後3年以内に再度の黒字転換が可能であるものの、営業外損益面における支払利息負担が大きく、損益勘定において平成14年度に発生する債務超過解消の見込みはなく、平成24年度の累積欠損額が約163億円に達する一方、資金勘定において平成15年度に資金不足が発生し、以降その額が拡大して、平成24年度の累積資金不足額は約162億円になるなど、経営収支の改善・健全化が見込めない状況となっており、当社の自助努力のみでは、もはや経営の健全化は図れない状況にあると考えられる。